

4/27
朝日

安保法反対こそが現実直視

歯科医師

(兵庫県 57)

「安保法反対派 現実直視して」(17日)を読んで少し違和感を覚えました。安全保障関連法に反対する人たちは、利己主義や個人主義から発するような論理で、異議を唱えているのでしょうか。私は現実を直視した客観的発想から反対しているように思います。

「日本はテロの標的になる危険もある」とありましたが、アメリカ追随の旗色を鮮明にする安保法は、むしろテロのリスクを生みまします。これまでの日本の中東外交は、イスラム圏でも評価されてきたと聞きます。

また「周辺からの脅威論」をおおる手法は、ナチスドイツの頃から変わっていません。これにより軍備が強化され、不幸な方向に進んだのが20世紀の歴史です。これに歯止めを掛けられるのが、憲法9条です。

現政権は意図的に、憲法も「国民が守るべき法律」と解釈させようとしています。しかし、あくまでも憲法は「国家権力を制限し、国民の権利を保障するための法律」です。このことを再確認し、無秩序な改憲論者に対抗していかなければなりません。もちろん秩序ある改憲論には耳を傾ける必要があるのは当然です。